

中学校の国語の授業が 変わる!!! — その1 —

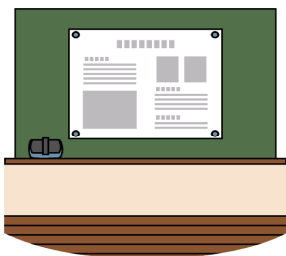
Q1 中学校の国語の授業を変えなければならないのは、なぜですか？

💡平成24年4月から中学校学習指導要領が全面実施されました。今回の改訂の国語科の基本方針には「基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることに資するよう、実生活の様々な場面における言語活動を具体的に内容に示す。」と述べられ、言語活動の充実を図った授業への改善が求められています。

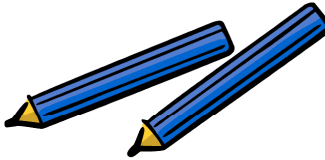



Q2 「言語活動の充実を図った授業」とは、どのような授業ですか？ また、今までも言語活動を取り入れた国語の授業を行ってきましたが、今までと同じではダメなのですか？

💡「言語活動の充実を図った授業」とは、ひと言で言えば「身に付けたい力を明らかにし、その力を付けるために、単元を貫く柱となる言語活動を位置付けて学習を展開させた授業」のことです。確かに、話したり書いたりなどの言語活動のない国語の授業はあり得ませんし、これまでも言語活動を取り入れた授業を行ってきました。しかし、「ここで音読する」「ここで主人公に手紙を書く」といったばらばらな言語活動を充実（パワーアップ）させても、言語能力育成を図る上で大きな改善は期待できません。また、その活動と付けたい力との関連が弱いことが多かったのも事実です。




Q3 これまでの授業にはどんな問題点があるのですか？



 これまでの国語の授業、特に文学教材や説明文教材を読む学習においては、場面や段落ごとの詳細な読みが主流でした。そして、時に発展読書を行ったとしても、教材を読んでおしまい、という授業が多く見られました。その単元でどんな力を身に付けさせたいのか、教材で学んだことが本当に身に付いたのか、明確ではありませんでした。さらに、教材文を問題とする定期考査の問題は解けるが、初見の文章を問題とした実力テスト等では正答率が極端に低くなる、という事実も看過できません。教材はあくまで手段であって、教材で学んだこと（習得したこと）を使って（活用して）どんな文章でも読める力を付けることが求められているのです。

Q4 どんな授業に変わる（変える）のですか？

 文学的文章を例に説明します。
これまで多く見受けられた授業は…

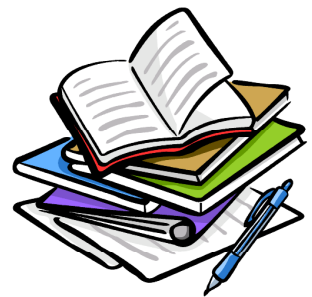
- I ① 全文を通読し、初発の感想を書く。
- ② 初発の感想をもとに、学習課題を設定する。
- II ① 全体のあらすじ、登場人物、出来事をおさえる。
- ② 場面ごとに前から順番に詳細に読み取る。
- ③ 作品や主人公について考えたことを書く。
- III ① 発展読書をする。




これから求められる授業の1つの例としては…

- I ① 教師の演示等で、単元を貫く言語活動を知る。
- ② その言語活動に必要な学習の見通しを立てる。
- II ① その言語活動に必要な力を付けるために、教材を使って読み方を学ぶ。
（場面ごとに前から順番に詳細に読み取るのではなく、場面を比べて読んだり、全体を通して読んだり、必要な部分だけを摘み取って読んだりするなど、学習課題に応じて多様な読みが必要になってきます。）
- III ① 学んだことを生かして言語活動を行う。
（教材以外の作品を扱うことも考えられます。）

並
行
読
書




Q5 「並行読書」とは何ですか？

単元の学習中に教材以外の本を読書することをいいます。第三次で行う学習活動（単元を貫く柱となる言語活動）を行うためには、教材を離れて多くの本を読むことが必要になることがあります。50分間の授業の中で読書をするには実際には難しいため、授業以外の時間、例えば、朝の読書の時間や休み時間、家庭学習などを利用することが考えられます。並行読書は、授業を進める上で必要なだけでなく、読書離れが進んでいる生徒に、本にふれる機会を多く与えるとともに、様々なジャンルの本を読むことによってより多くの知識やものの見方、考え方などを身に付けさせるという側面も持っています。

実際には、単元の学習が始まる前に授業者が生徒に読ませたい本（教材と同じ作家の本や教材と同一テーマの本など）を選び出し、教室に置いたり紹介したりすることが考えられます。複数の生徒が同じ本を読むこともありますので、同じ本を数冊準備する必要があります。

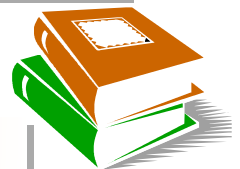
Q6 その本はどうやって準備すればいいのですか？

まずは学校図書館で探ることが考えられます。しかし、読ませたい本が必ずあるとは限りませんし、1冊しかない場合もあります。その時は、次の方法で本をそろえるとよいでしょう。


- ① 地域の公立図書館で探してみましょう。
- ② 県立図書館ではセット貸し出しを行っています。申し込みをして近くの拠点図書館（会津域内では会津若松市、喜多方市、西会津町、会津坂下町の各図書館）で受け取ります。貸し出し期間は3か月です。
- ③ 移動図書館車「あづま号」が利用できます。巡回期日は決まっていますが、最寄りの公民館で受け取ることができます。
- ④ インターネットサイト「青空文庫」も役立ちます。著作権が消滅した文学作品等を中心に収集・公開しているインターネット上の電子図書館です。（<http://www.aozora.gr.jp/>）

※ ②と③の詳細については会津教育事務所HPからアクセスできますので、ご利用ください。

※ 本を丸ごとコピーして学級の生徒に読ませることは、著作権法第35条ガイドラインに抵触します。絶対に行わないでください。




Q7 小学校の国語の授業も変わるのですか？

 小学校学習指導要領が平成23年4月から全面実施されたことに伴い、小学校の授業改善は1年早く始まっています。小学校も中学校も授業改善の考え方は共通しているので、小学校の実践もおおいに参考になります。



Q8 どうやって単元を構成すればいいのですか？

 大きく4つの手順で進めてみましょう。

その1 単元で身に付けたい力を明らかにする。(これがないと、活動ありきとなる。)

★ 年間の見通しの中で、子どもの実態から単元で取り上げる指導事項を確定

その2 その身に付けたい力を育成できる言語活動を確定する。

★ 身に付けたい力にぴったりの言語活動を選択
(「言語活動例」を手がかりに)

その3 その言語活動を行う上で必要な具体的能力を洗い出す。


★ 「その単元で重点的に指導するもの」
「すでに身に付いていて活用するもの」
「次単元以降で重点的に指導するもの」に整理

その4 洗い出した力を整理し、その力を身に付けられる指導過程を構想する。

★ 導入学習の工夫、並行読書する本の選定、
ワークシートの開発



Q9 実際にどのような授業に変わるのか、具体例が知りたいのですが…

 次回号で2年「走れメロス」を例に単元構成の手順の具体例を示します。どうぞ、お楽しみに！

